

器具・器材の管理に関する相談

相談9：経管栄養ボトルとチューブの洗浄・消毒・保管方法について

(相談内容)

経管栄養ボトルとチューブの洗浄、消毒、保管はどのようにすればいいでしょうか。

(回答)

単回使用器材の製品は、原則、使い捨てが基本であるため、再使用は推奨できません。やむを得ず、再使用する場合は、各医療機関の責任のもと行うことになります。再使用する場合は、下記のように形状を考慮し、処理します。

ボトル型(円筒型)の投与容器の場合

洗浄や乾燥が行いやすい形状であるため、食器用洗剤などで十分洗浄し、食器乾燥器で乾燥させる。

投与チューブやバッグ型の投与容器

内腔まで洗浄や乾燥が行いにくいいため、消毒が必要。

(水洗いして乾燥する方法では、経管栄養剤の高濃度細菌汚染が認められています。)

洗浄後、次回使用時まで 0.01%次亜塩素酸ナトリウムに、使用直前まで 60 分以上浸漬し、流水で洗浄し、使用する。

(注意事項)

1. 器材を繰り返し使用する場合、使用のつど洗浄と消毒が必要。
2. 高濃度に微生物汚染を受けた経管栄養剤は、胃腸障害のみならず敗血症や肺炎などの原因となる。
3. 経管栄養剤の微生物汚染の原因の1つが投与バッグ・チューブの微生物汚染である。
4. 経管栄養剤が微生物汚染を受けるとその汚染菌は速やかに増殖する。
5. 特にバッグ型の投与容器やチューブは洗浄や乾燥が行いにくいので、繰り返し使用で微生物汚染を受けやすい。

【洗浄・消毒手順】

①洗浄→バッグとチューブを水で2～3回すすぐ。

チューブにも水を2～3回通して汚れを落とす。

②消毒→0.01%の次亜塩素酸ナトリウムに1時間以上浸ける。

チューブ内に1度、消毒液を通し、そのまま全体を浸ける。

バッグ内、チューブ内に空気が残らないように注意する。

円筒型容器は、食器洗浄機による熱水消毒(80℃・10秒間)でもよい。

③保管→次に使うまで浸けておく。

使うときは、消毒液をよく振り切ってから使う。

参考文献：

- 1) インфекションコントロール編集室, 感染対策の必須テクニック 117, メディカ出版, 2010年秋季増刊.
- 2) 尾家重治監修, 感染対策Q & A (3) 病院環境の整備 1, サラヤ株式会社, 2006.